

淀川水系の現状と課題

平成19年 11月 6日

国土交通省 近畿地方整備局

1. 治水・防災
2. 利水・利用
3. 河川環境

治 水 · 防 災

1. 現状と課題

- 全川：堤防に浸透・侵食に対して弱い箇所が広範囲に存在
- 下流部 流下阻害の橋梁
- 中上流部 流下能力不足
- 現状は下流の整備が先行し、中上流が遅れている。
- 現状で計画規模の降雨があっても、淀川本川は計画高水位以下で流下

※詳細については、資料－3による

2. 淀川水系の今後の河川整備

(1) 堤防の補強

(2) 上下流・本支川間のバランスに基づく治水対策

(3) 危機管理体制の構築

(1) 堤防の補強

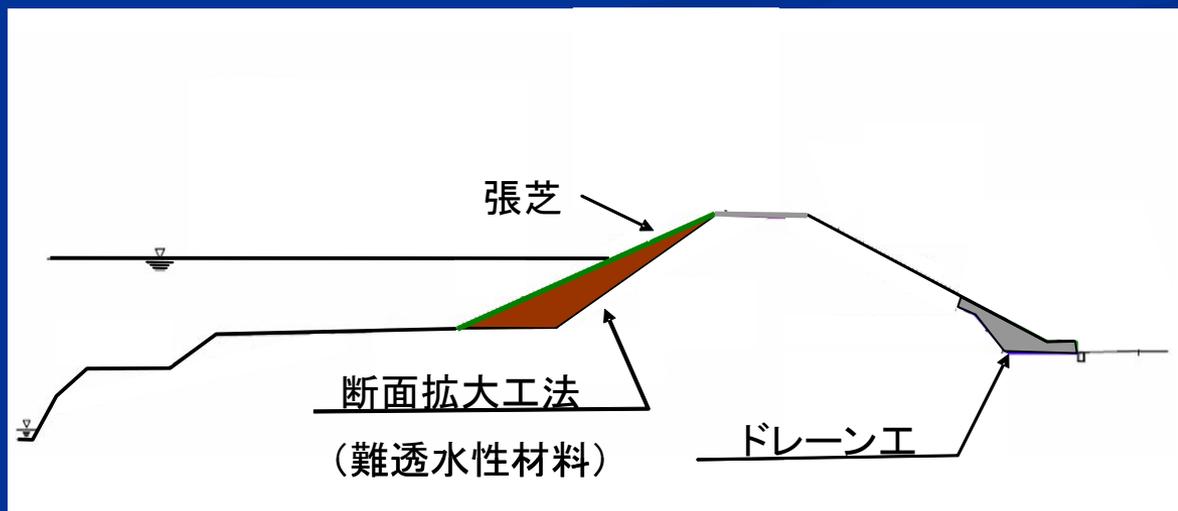
堤防の補強を最優先で実施

(計画高水位以下の流水の作用に対して万全を目指す)

堤防補強対策実施延長

淀川(本川)	20.2km
桂川	5.1km
木津川	41.3km
宇治川	3.4km
猪名川	4.7km
瀬田川	0.9km
野洲川	9.4km

対策工法の事例(浸透対策)



表のり断面拡大工法・ドレーン工

(2) 上下流・本支川間のバランスに基づく治水対策

整備途上のいかなる段階においても、
淀川本川は計画規模の降雨に対して計画高水位
以下で安全に流下

- 中上流部の流下能力向上

戦後最大洪水までは安全に(家屋の浸水被害を解消)

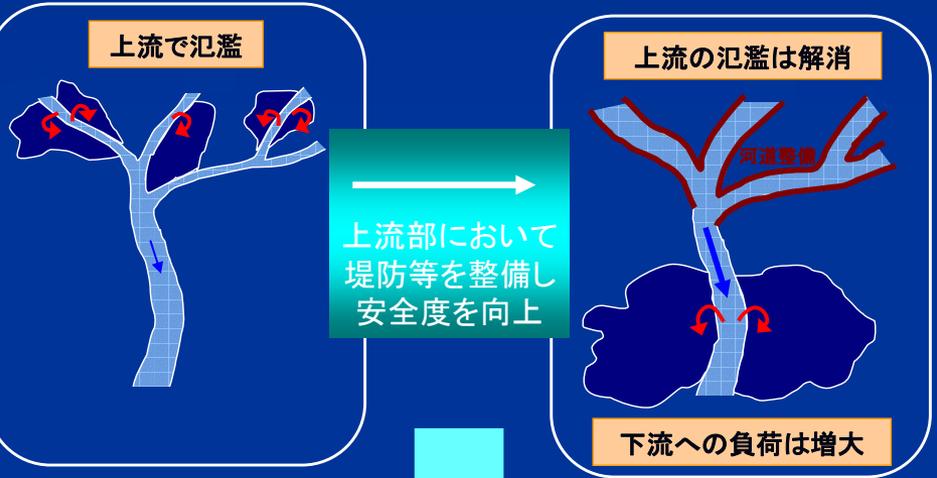
- 中上流の改修が下流に負荷をかけないよう、上流で洪水調節

上下流バランスの考え方(淀川水系関係6府県知事も含めた共通認識)

上流の築堤や掘削等の河川改修に伴う下流有堤区間における人為的な流量増による堤防の決壊は極力回避する。

考え方のイメージ

未改修の状況では上流で氾濫
下流の流量が増加
→下流部の堤防区間の危険度が増大

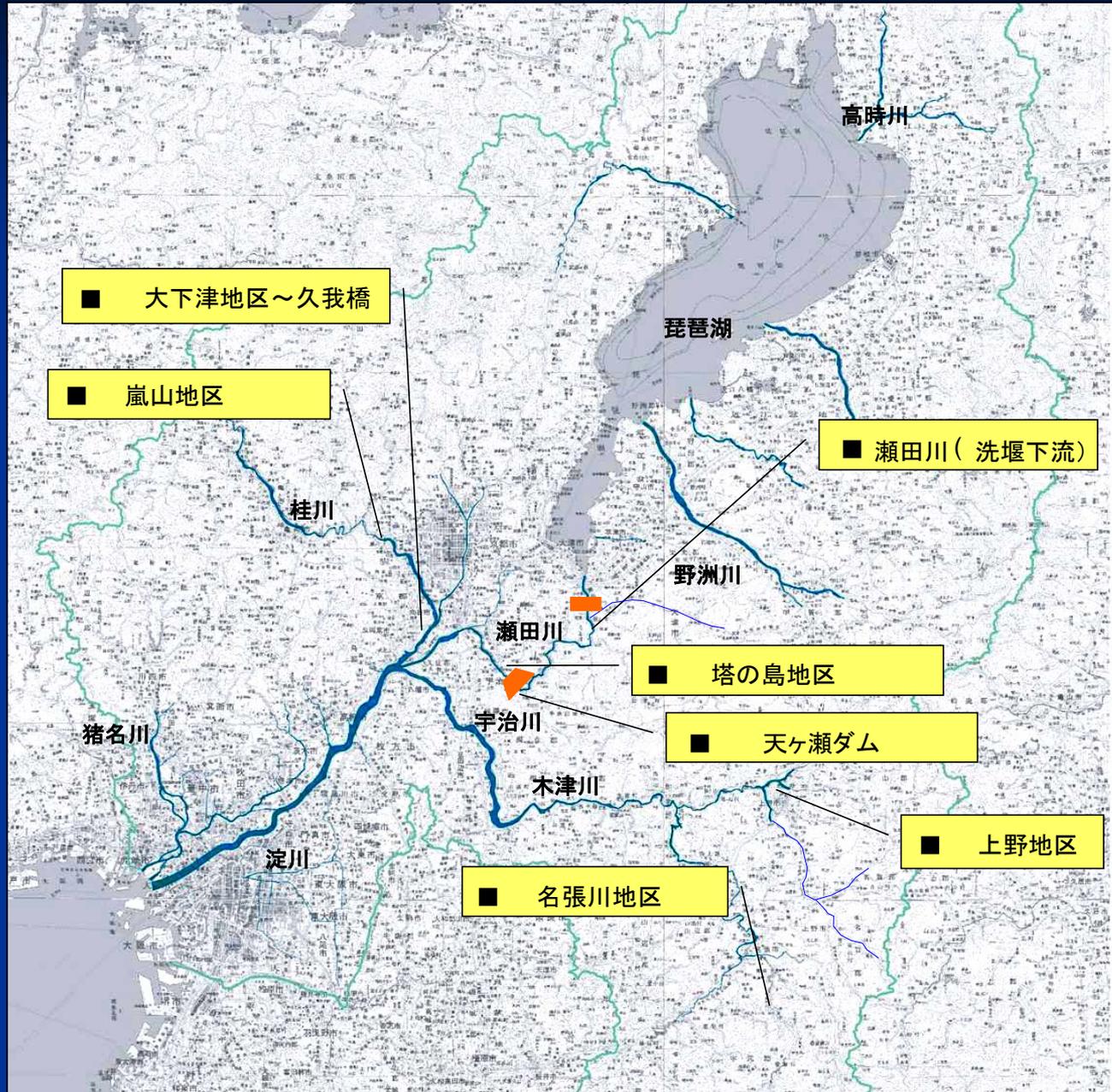


堤防等の整備により上流部の安全度を向上させることにより、下流に誘導することになる流量に対し、人工工作物である堤防により防御されている下流部が安全となるよう上流部よりも高い安全度を下流部に設定することが必要。

淀川本川と中上流の間における上下流バランス

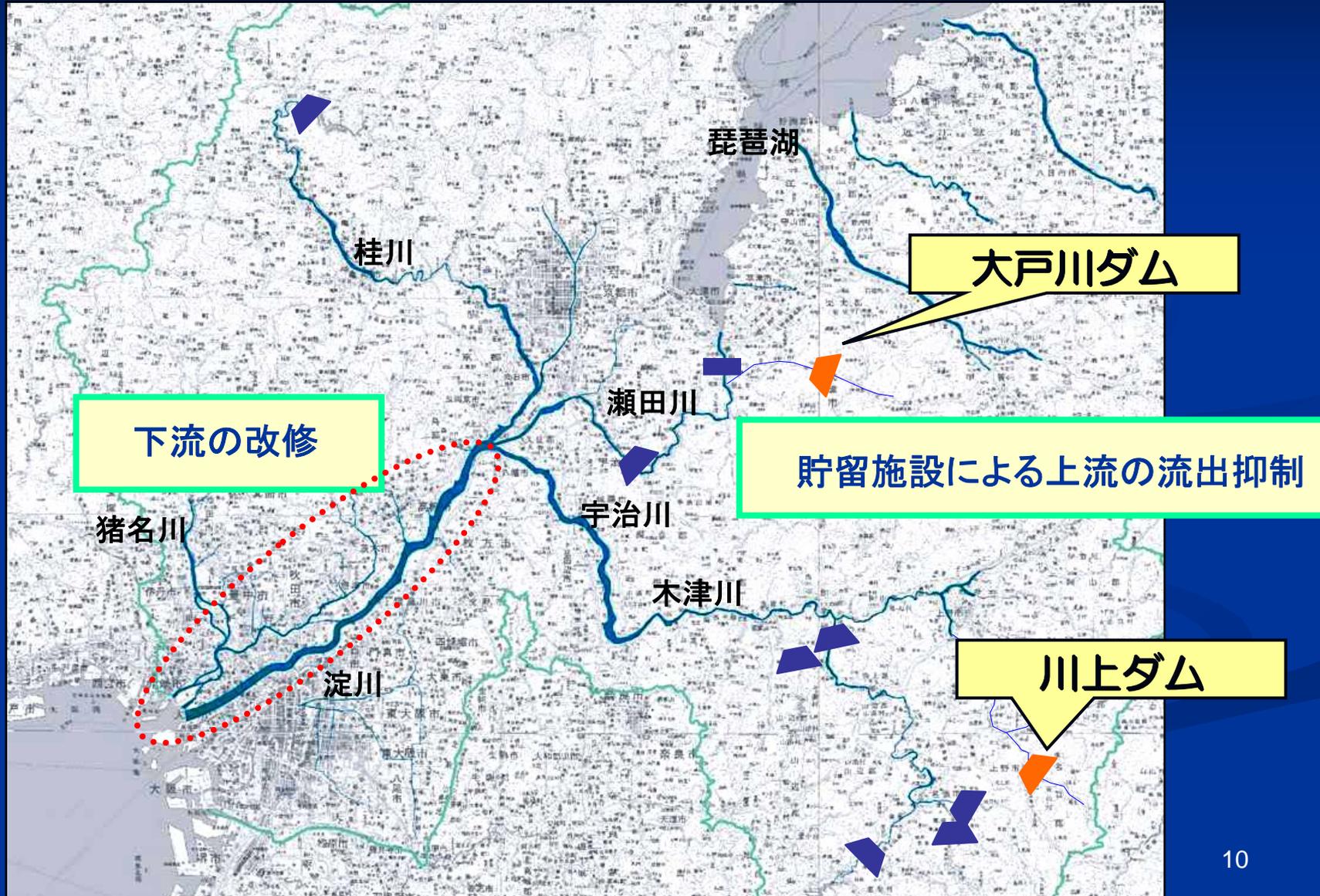
整備のあらゆる段階において、計画規模以下の洪水に対しては、淀川本川の水位が計画高水位を超過しないよう水系全体の整備を進める。

①上中流部の河川改修



②淀川本川を計画高水位以下に抑える整備

中上流改修による下流への流量増への対処



(3) 危機管理体制の構築

洪水・高潮被害の減災にむけて～水害に強い地域づくり協議会～

【概要】

1. 防災情報について、行政と住民との間の双方向の情報伝達等ができる体制の整備
2. 時間と場所を問わずわかりやすい情報を容易に入手できるよう、情報提供の積極的な展開
3. 防災に関わる行政の密なる連携

【桂川地区】
京都市、向日市、長岡京市、大山崎町
京都府
淀川河川事務所

**【木津川右岸
宇治川左岸】**
京都市、宇治市、城陽市、久御山町、井手町、京都府
淀川河川事務所

【淀川右岸地区】
大阪市、吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、島本町、大阪府
淀川河川事務所

【木津川左岸地区】
八幡市、京田辺市、木津川市、精華町、京都府
淀川河川事務所

【淀川左岸地区】
大阪市、枚方市、寝屋川市、守口市、門真市、大東市、東大阪市、大阪府、淀川河川事務所

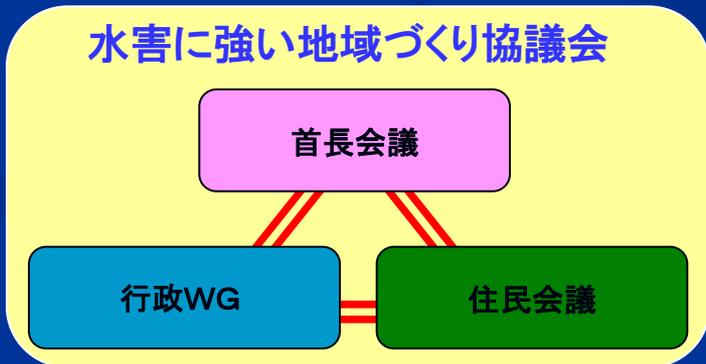
水害に強い地域づくり協議会
(住民、沿川自治体、河川管理者)

「自助(自分で守る)」
(情報伝達、避難体制の整備)

「共助(みんなで守る)」
(水防活動、河川管理施設の運用)

「公助(地域で守る)」
(街づくり、地域整備)

【構成】(淀川管内の事例)



当面の実施内容(淀川管内の事例)

- ・避難情報の基準作成
- ・ハザードマップの作成の支援(作成済24市町/構成26市町)
- ・CCTVカメラの整備、関係市町への水位、映像等の情報を提供するための光ファイバ接続
- ・住民会議開催に向けた支援
 - ①住民学習会の支援 ②職員研修の支援
- ・防災情報提供に関する地域メディアとの連携(コミュニティFM・地域SNS、CATVなど)
- ・まるごとまちごとハザードマップの推進
- ・水防拠点整備と資機材備蓄
- ・排水ポンプ運用検討



CCTV映像の提供(宇治市)



井手町住民勉強会(H18.10.14)



宇治市災害対策本部防災研修(H19.1.17)

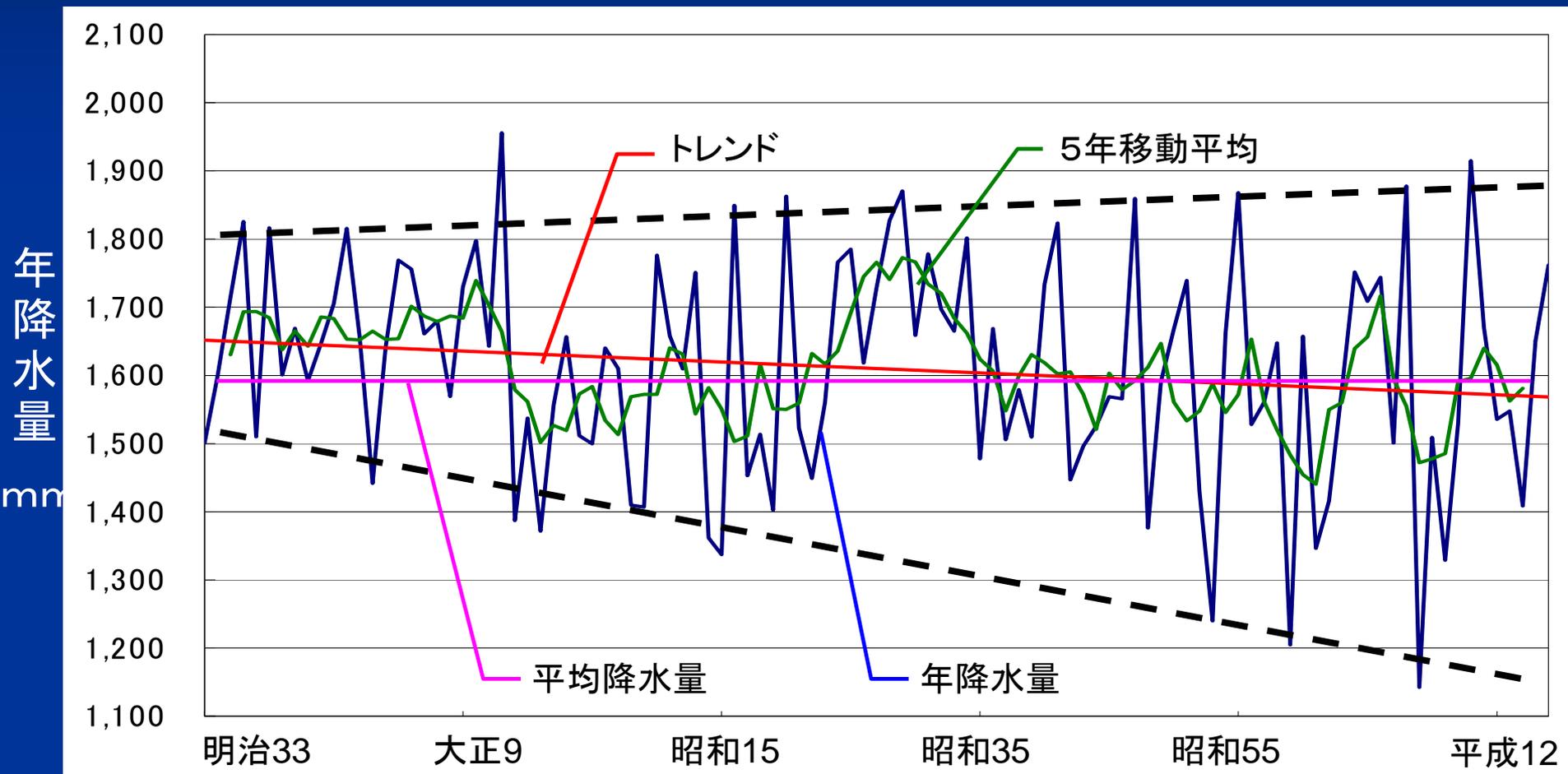


桂川地区首長会議(H19.2.16)

利 水 · 利 用

近年の気候変動

近年、温暖化による年間降水量の変動幅が大きくなる傾向にあり、特に少雨の年の年間降水量が大幅に減少傾向



淀川舟運の通船の推移

江戸時代～昭和30年代



※通船数は、毛馬閘門の上り・下りの通過船舶数の合計である

河川環境

琵琶湖の在来種の減少

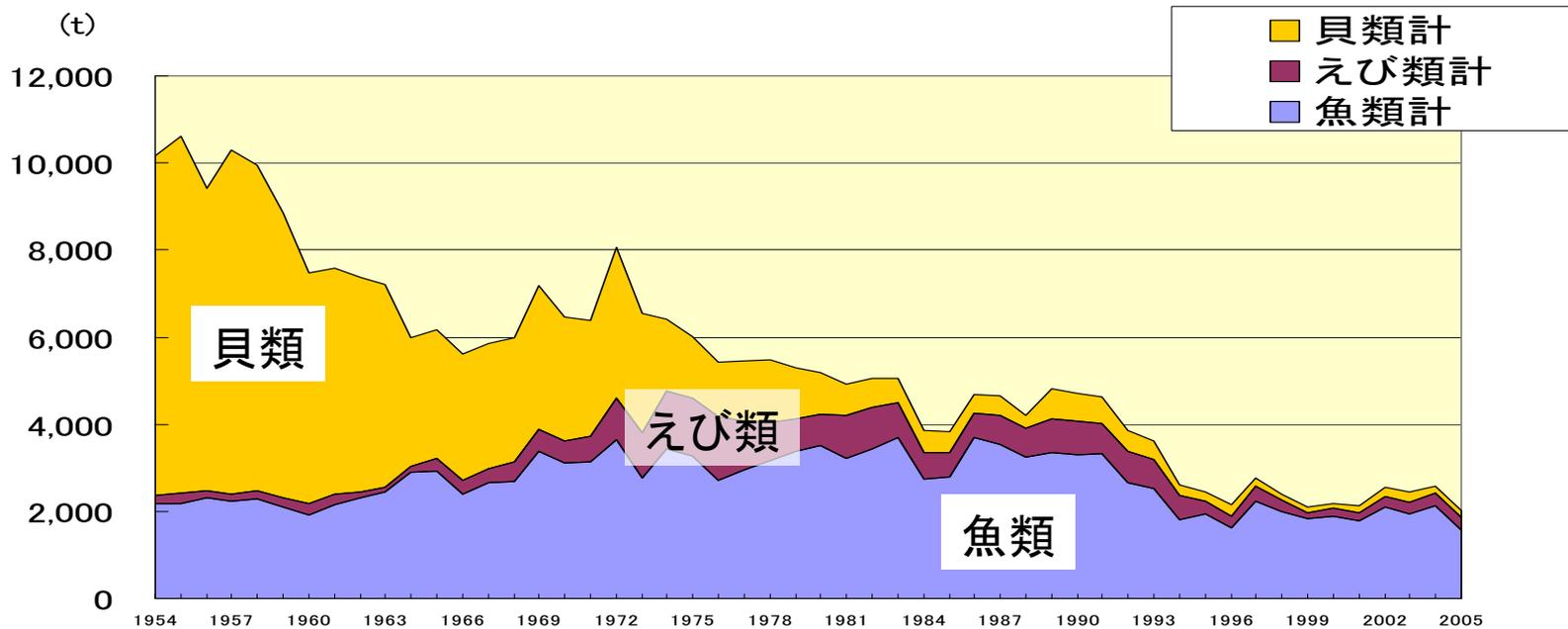
魚類(在来種)の減少

琵琶湖固有種をはじめとした在来魚類の減少が指摘されている。

魚類減少の原因として指摘されている要因

- 外来魚のオオクチバスやブルーギルによる捕食
- 内湖の干拓
- 水質汚濁(水田からの濁水の発生含む)の進行
- 圃場整備による水田への移動経路の遮断
- 湖岸堤の建設(水辺移行帯の減少)
- 琵琶湖の水位低下の頻度が増大

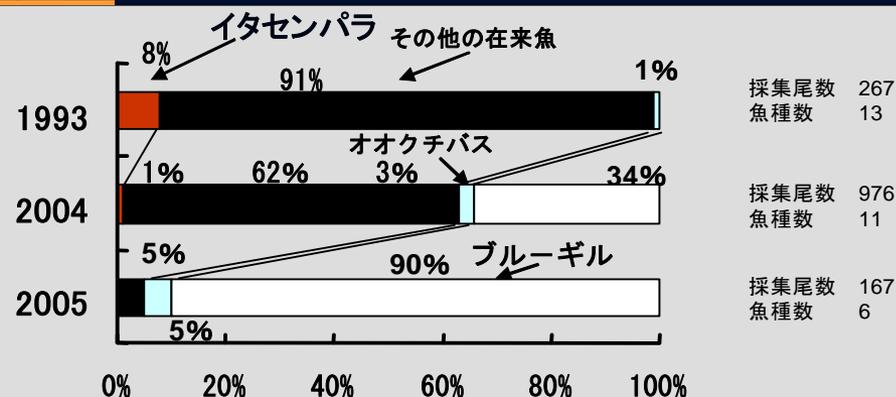
琵琶湖の類別漁獲量



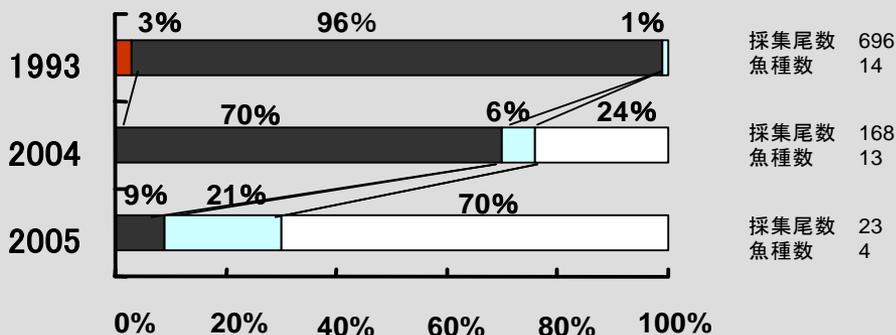
滋賀県農林水産統計より

淀川ワンドの魚類相の変遷

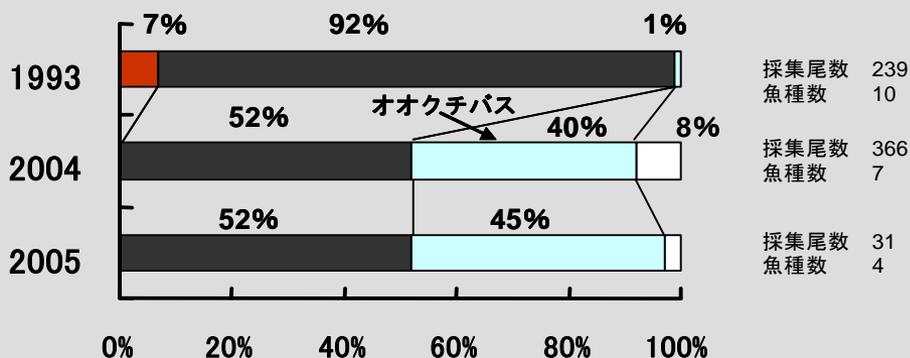
城北ワンド(No.36)



城北ワンド(No.39)



平成ワンド



◇調査方法

地曳網(長さ30m、袖網の深さ1m、袋口の深さ3m、袋網の長さ4m、網目5mm、採集面積約140m²)を使用し、魚種が最も多く採集可能な8月に大阪市旭区城北地区周辺のワンド3カ所の定点において調査を実施。

外来種

ブルーギル



ブラックバス



平成ワンドを覆い尽くすボタンウキクサ

